

[前画面へ戻る](#)

科目名 産業社会学 I
配当年次 1 年次
開講期間 春学期
単位数 2
担当教員 塚本 成美(ツカモト ナルミ)
期間・曜日・時限・教室 春学期 火曜日 3 時限 1 7 - 2 0 2

※

授業の目的・目標

①授業の概要：私たちが現実生活を営む社会とは、どのような社会なのだろうか。産業社会はどのように形成されてきたのだろうか。産業社会とは組織化された社会であり、現代社会の特徴をとらえた一般的な言葉である。また、近代的産業社会の多くは、資本主義によって刻印されている。本講義では、資本主義形成の推進力となった精神態度と、産業社会がその生成と発展の過程のなかでどのように組織化されてきたか、それとともに、人間の社会生活と労働はどのように変化してきたかを解説する。

②授業の目的：豊かな社会の底流を流れる経済社会の基礎あきらかにすることで、現代がどれほど大きな時代の転換期をむかえているかを理解し説明できる力をつけることをめざす。

③習得できる力：経営学部ディプロマポリシーあるいは全学部ディプロマポリシーとの関連については、別紙に示します。

④授業の到達目標：産業社会の形成を資本主義の形成との関連で学ぶため、産業社会の本質と現代における変容を理解し説明できるようになる。

⑤実務経験と授業内容との関連：なし

1回の授業について

・予習（1時間45分）：授業資料となるPDFを一週間前にWebclassにアップするのでよく読んでおくこと。

・授業で取り上げるPDFと参考書などにより、授業の大まかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各授業の終了時に説明する。

・復習（1時間45分）：授業で取り上げた重要なポイントを中心に、ノートを見直し論点を整理して、確認テストを作成・提出すること。次回授業時に適宜内容を確認し、フィードバックを行う。

課題の配布や提出を行うため、WebClass等のLMSを用いる。

準備学習等の指示

講義スケジ ■ 1回目

ルール 【テーマ】 産業社会の特質(シラバスの説明)

【到達目標】 企業活動によって形成された社会経済システムの形成が産業社会をどのように組織化したかを知ること、産業社会の特性を理解できるようになる。

【準備学習】 シラバスをもちいて本講義の問題設定と構成を説明しますので、シラバスを読んでください。

■ 2回目

【テーマ】 システム化された社会とその帰結

【到達目標】 産業社会の形成には経済主体としての企業の存在が不可欠であったことを知ること、産業社会が企業を基準として形成されてきたシステムであることを理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておく理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 3回目

【テーマ】 産業社会の社会構造

【到達目標】 労働市場適合的能力の必要や労働市場を中心とした社会構造をデータをもとに学ぶことで、産業社会がいかに労働中心社会であるかを理解することができるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておく理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 4回目

【テーマ】 産業社会と近代資本主義

【到達目標】 産業社会が産業革命を出発点として形成されてきたこと、産業革命の推進と産業化の根底には近代資本主義をうみだしプロテスタントの経済合理主義があることを学ぶことで、近代社会経済構造を生みだした世界観を理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておく理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 5回目

【テーマ】 資本主義の精神史的源泉(1)

【到達目標】 産業社会の形成が近代資本主義の合理主義と合理的精神によって推進されたことを学ぶことで、近代社会経済構造を生みだした世界観の源泉にある宗教倫理を理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておく理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 6回目

【テーマ】 資本主義の精神史的源泉(2)ープロテスタンティズムの倫理

【到達目標】 M.ウェーバーのプロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神に関する議論を検討することで、資本主義がなぜ西欧で生まれたのか、その本質的特徴は

と精神的基盤は何かを理解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 7回目

【テーマ】 産業社会とはどのような社会か。(課題レポート及びフィードバック)

【到達目標】講義の内容に沿って産業社会の特性を論述することで、文章力が付くだけではなく、考えをまとめ自分の言葉で表現できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)や講義時のノートなどを見直し、産業社会とはどのようなものかについて自分なりの論理構成をたてておくと、レポートを書くのに便利です。

■ 8回目

【テーマ】 アメリカ産業社会の生成

【到達目標】アメリカの初期産業社会の形成過程を知ることで、産業社会が歴史的にどのように形成されてきたかを具体的に理解することができるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 9回目

【テーマ】 アメリカ産業社会の発展―社会経済のシステム化

【到達目標】産業社会のインフラ整備―鉄道と通信、大企業と産業社会の確立など産業社会における鉄道やインフラの形成過程を知ることで、産業社会の土台である社会経済システムの形成過程を歴史的に理解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 10回目

【テーマ】 近代的企業の確立と産業社会の展開

【到達目標】産業合理化以降、現在に至るまでの近代産業社会の変遷をたどり資本主義の限界をすることで、21世紀に必要な新しい労働がどのようなものか理解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイントを見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 11回目

【テーマ】 新しい労働と社会

【到達目標】産業化がどのように地域コミュニティを解体してきたのかを考え、本来の地域のあり方とこれからの地域のあり方を学ぶことで、なぜ地域コミュニティが必要なのかを理解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 12回目

【テーマ】 地域社会と公共社会

【到達目標】産業化は地域社会を解体してきたが、90年代以降社会再形成の機運のなかで注目されるようになってきたサードセクターがどのようなものを学ぶことで、新しい社会の統合や方向性を洞察できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■13回目

【テーマ】 産業社会の負の遺産

【到達目標】講義の内容に沿って:公共社会形成の意義は何かを考えることで、これからの社会形成を展望する洞察力を身につけ、今後の社会のあり方について自分の考えをもつことができるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)や講義時のノートなどを見直し、公共社会形成とはどのようなものかについて自分なりの論理構成をたてておくと、レポートを書くのに便利です。

教科書

なし。ただし、講義資料のパワーポイント(PDF)は、テキストの代わりになるようかなりの内容を書き込みます。

参考文献

M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫

M.ウェーバー『一般社会経済史要論』(上)(下) 岩波書店

Aチャンドラー『経営者の時代』(上)(下) 東洋経済新報社

A.トクヴィル『アメリカの民主政治』(上)(中)(下) 講談社学術文庫

その他

1.講義方式でおこないます。

①原則として対面でおこないますが、Zoomによるオンラインのリアル配信もおこないます。

②講義は録画してWebclassにアップし、オンデマンドでの視聴もできるようにします。

③講義の内容は、事前にWebclassにアップロードしておきます。

授業の方法

2.セメスター期間中に1-2回講義内容についての課題レポートを書いてもらいます(授業スケジュール参照)。課題レポートについては、次の講義時にフィードバックをおこないます。

3.双方向性を確保するために、講義後に確認テスト(リアクションペーパー)を提出してもらいます。確認テストでは、その日の講義内容および質問やわかったこと、感想などについて書いてもらいます。

①次回講義の最初に前回講義の復習をかねて、確認テストの答えと質問等のフィードバックをおこないます。

②履修者のコメントや感想は、匿名でWebclassにアップし共有します。いろいろな意見を参考にしながら講義内容の理解を深めていきます(問答法)。

4.課題レポートと確認テストの提出はすべて、Webclassでおこないます。

成績評価方法

【評価方法・割合】確認テスト(50%)、中間課題レポート(25%)、期末テスト(25%)で評価します。

【基準】(1)講義の理解度を、レポートの場合は、①論点が網羅されているか、②論

点に関して十分な説明や論述が行われているか、③問題を正しく理解し、自分の言葉で理解して表現しているか、④論理的に構成されているか、⑤全体の分量などで評価します。

(2)確認テストの場合は、①正解がわかっているか、②質問は適切か、③講義内容を言語化できているかなど、で評価します。

【フィードバック方法】なお、課題等については、「授業の方法」でも書いたように、次回講義時に全体に向けてコメントします。

オフィスア
ワー

居室 17-412

ホームペー
ジ

その他特記
事項

添付ファイ
ル

[前画面へ戻る](#)

Copyright FUJITSU LIMITED 2005-2011